

診療科ダイヤルイン電話一覧

血液内科	03-6709-9350	脳神経外科	03-6709-9370
神経精神科	03-6709-9351	腎臓内科	03-6709-9371
小児科	03-6709-9352	腎臓外科	03-6709-9372
小児外科	03-6709-9353	泌尿器科	03-6709-9373
整形外科	03-6709-9354	腎臓・小児科	03-6709-9374
形成外科	03-6709-9355	糖尿病・代謝内科	03-6709-9375
皮膚科	03-6709-9356	糖尿病眼科	03-6709-9376
産科・婦人科	03-6709-9357	高血圧・内分泌内科	03-6709-9377
眼科	03-6709-9358	乳腺・内分泌外科	03-6709-9378
耳鼻咽喉科	03-6709-9359	母子センター（新生児部門）	03-6709-9379
放射線腫瘍科	03-6709-9360	母子センター（産科部門）	03-6709-9380
画像診断・核医学科	03-6709-9361	呼吸器内科	03-6709-9381
麻酔科 （ペインクリニックも担当）本院	03-6709-9362	呼吸器外科	03-6709-9382
歯科・口腔外科	03-6709-9363	救命救急センター	03-6709-9383
循環器内科	03-6709-9364	総合診療科	03-6709-9384
心臓血管外科（成人・小児）	03-6709-9365	リウマチ科	03-6709-9385
循環器小児科	03-6709-9366	血液浄化療法科	03-6709-9386
消化器内科	03-6709-9367	化学療法・緩和ケア科	03-6709-9387
消化器外科	03-6709-9368	リハビリテーション科	03-6709-9388
神経内科	03-6709-9369	ゲノム診療科	03-5269-7509
女性科	調整中		

【診療時間】平日 9時～17時
土曜日（第3土曜日を除く）9時～12時
診療時間内に各診療科担当との直通連絡が可能です。

2019年度の講演会予定

脳外科	循環器内科
KAMPO CLINICAL CONFERENCE	第12回 回心臓病センター医療連携の会
5月14日 東京女子医科大学病院 臨床講堂2	4月25日 ハイアットリージェンシー東京 B1F「センチュリールーム」
河田町下垂体疾患セミナー	腎臓内科
5月23日 東京女子医科大学病院 臨床講堂2	新宿代謝・内科フォーラム
	5月29日 東京女子医科大学病院 臨床講堂2
	河田町腎臓フォーラム
	9月19日 東京女子医科大学病院 臨床講堂2

糖尿病・代謝内科
第12回 Diabetes Update Seminar
4月4日 東京女子医科大学病院 臨床講堂2(予定)
第55回糖尿病センターとの病診連携の会
6月19日 京王プラザホテル南館3F「グレースルーム」
糖尿病地域包括ミーティング(仮)
7月11日 未定

発行：2019年3月20日
編集：東京女子医科大学病院 医療連携・入退院支援部
連絡先：医療連携・入退院支援部 ☎ 03-3353-8111(代表) 内線 20175



Tokyo Women's Medical University Hospital

女子医大便利

2019年春号

1_医療連携・入退院支援部の発足について 2_新任教授のごあいさつ 3_ダイヤルインのご案内 4_各科の講演案内

医療連携・入退院支援部が発足いたしました

医療連携・入退院支援部

入退院支援室	入院面談・在宅調整
医療福祉相談室	医療・福祉相談
地域連携室	かかりつけ医との連携 セカンドオピニオンの予約受付
ベッドコントロール室	ベッドコントロール
クリニカルパス推進室	クリニカルパス作成・管理
医療連携推進委員会	※ 各診療科より 医療連携推進委員を選出



医療連携・入退院支援部 担当副院長 飯田知弘

平素より当院に多大なるご厚誼をいただき、心より御礼申し上げます。
当院は、大学法人の建学の理念「至誠と愛」の下、患者視点に立って、安全・安心な医療の実践と高度・先進な医療を提供することを基本方針としています。その1つとして、今年度、『医療連携・入退院支援部』として、【地域連携室】、【医療福祉相談室】、【入退院支援室】、【クリニカルパス室】、【ベッドコントロール室】の5室が一つの部として組織再編されました。
【地域連携室】は、当院と地域の医療機関やかかりつけ医の先生方との連携の窓口として、紹介の先生方からのお問い合わせ、外来診療やセカンドオピニオン外来の予約、返書等診療情報提供書の発送業務を担当しています。【入退院支援室】では、入院予定の患者

さんの入院前オリエンテーションを行い、入院後には【医療福祉相談室】と協働し、退院・転院支援を行っています。また、【クリニカルパス推進室】と連携し、患者用パス適用率の向上を目指し、治療の流れや入院期間などの具体的な内容を患者さんに入院前に説明し、患者さんの不安を軽減させるよう努力しています。これらの活動は、在院日数短縮・稼働率の向上に向けた病床マネジメントを行っている【ベッドコントロール室】の目標にもつながっています。
当院のモットーであります「主治医は2人」を大切に、「多くの患者が当院の専門的かつ急性期医療を受けることができ、治療を終えた患者・家族が安心して地域に退院・転院ができる」ことを目指して地域医療に貢献していく所存です。今後とも、なお一層のご支援をお願い申し上げます。

新任教授 ごあいさつ



皮膚科学
教授 石黒直子

2018年4月より皮膚科学講座 教授・講座主任を拝命致しました。皆様からはこれまで多くのご紹介を頂いてまいりましたが、これからも、診断に苦慮する皮膚症状の皮膚生検や帯状疱疹、蜂窩織炎などの急性疾患の入院の受け入れはもとより、接触皮膚炎、蕁麻疹の原因追求のためのアレルギー検査なども精力的に行ってまいります。昨今 QOL の低下が著しい乾癬、掌蹠膿疱症、重症のアトピー性皮膚炎や慢性蕁麻疹において生物学的製剤が盛んに使用されるようになっておりますが、各専門外来にてその受け入れを行っております。その他、皮膚腫瘍、色素性疾患の正確な診断の下、手術、レーザー治療などを施行しております。また、私の専門であります膠原病・血管炎に伴う皮膚症状の診察にも従事し、膠原病内科を始めとする関連科と連携して診療にあたってまいります。今後、益々皆様との連携の強化に努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 29 年 11 月 1 日付にて東京女子医大 移植管理科科长を拝命いたしました石田英樹と申します。移植医療をめざし女子医大に入局し、ちょうど 30 年になりました。東京女子医大は腎臓、肝臓、心臓、膵臓などの臓器移植が可能な日本有数の複数臓器の移植施設です。このたび、新たに設けられました移植管理科に着任し、大変身の引き締まる思いであります。

本邦は先進国の中で最も臓器提供の遅れている国であります。理由としてあげられるのは、人の死に関する教育の遅れ、宗教感や倫理観の欧米との違い、臓器提供の啓蒙の遅れなどです。今後は女子医大における移植医療への貢献はもちろんのこと、先進国の中で圧倒的に遅れてしまっている臓器提供の問題に真剣に向きあい解決の糸口をみつけないと思いません。

そのためにもまずは東京女子医大のなかで臓器提供を 1 つでも増やすべく努力していく所存です。皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

移植管理科

教授 石田英樹



乳腺・内分泌外科・小児外科学
女性科(乳腺外科)
教授 神尾孝子



2017年11月に乳腺・内分泌外科・小児外科学講座教授、女性科(乳腺外科)教授に就任いたしました。専門は乳腺外科で、乳管内視鏡などをも活用した乳がんの早期診断とともに、的確で安全な乳がん手術、集学的治療の実践に努めております。形成外科との連携で、乳房再建術も積極的に行っており再建を希望される方の割合も増加しています。また、2018年5月には女性センター(女性科)が正式に開設され、各診療科の女性の教授およびスペシャリストの女性医師が兼任する形で着任し、女性に多いあるいは特有の疾患、臓器の診療を連携して行っております。現在、乳腺外科の他、化学療法や緩和ケア、遺伝子診断、内科系の疾患、大腸・肛門外科、内視鏡検査、眼科などの診療を行っていますが、今後さらに充実させ女子医大ならではの信頼され、特色ある女性センター(女性科)を目指して行きたいと考えています。ご指導、ご支援の程なにとぞよろしくお願い申し上げます。



予防医学科
教授 村崎かがり

平成 30 年 7 月に予防医学科に着任いたしました。予防医学科では Total Health Care (THC) と名付けられた会員制の健康診断プログラムを行っております。当科では、大学病院附属施設でこそ可能な、最新の医学と医学的根拠に基づいた健診を実践し、疾病予防、健康増進のお手伝いをさせていただいております。我が国の疾病構造が変化してゆく中、さまざまな疾患やそれらの危険因子の疫学的動向を的確に把握し、最新の医療を用いて受診者様のご要望にお応えすることも、予防医学科の使命の一つと考えております。今後ともさらなる予防医療の実践に加え、受診者の健康への取り組みの支援、予防医療に携わる医療者の育成に努める所存です。皆様のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

2017年7月に遺伝子医療センター教授に就任致しました。遺伝子医療センターはこれまで附属施設でありましたが、2018年5月より、ゲノム診療科として本院内の診療科の1つとなりました。がんゲノム解析の臨床応用など、昨今のゲノム解析技術の進歩には著しいものがありますが、2018年度からは本学が、未診断難病研究(IRUD)の拠点病院の1つに採択されました。診断がつかない患者さんの診断を、ゲノム解析によって進めようという大掛かりな研究プロジェクトです。遺伝性が強く疑われるにも関わらず、診断がつかない全ての診療科における患者さんが対象です。ゲノム診療科ではこれらがん・難病にとどまらず、生殖医療や多因子による生活習慣病まで、幅広い分野における遺伝医療に対応しています。医療連携を密にして進めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



遺伝子医療センター
ゲノム診療科
教授 山本俊至

母子総合医療センター 新生児医学科

教授 和田雅樹

昨年9月に母子総合医療センター新生児医学科教授に着任致しました。本センター、八千代医療センターに勤務させていただいた後、新潟大学を経て、本センターに戻ってまいりました。新生児蘇生法(NCPR)普及ではこれまで多くの皆様にご世話になっており、感謝申し上げます。子ども達の人生のスタートを保障し、その後の健やかな発育を考えた医療を行うとともに、わが国の新生児医療のメッカである本センターを発展させていけるよう精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

患者様ご紹介の際は
ファクシミリ診療申込書
をご活用ください!

医療機関からの診療予約について

FAX 03-5269-7387 (24時間)

TEL 03-5269-7160

受付時間：平 日 午前9時～午後5時20分
土曜日 午前9時～午後1時

休 診 日：第3土曜・日曜・祝日、
創立記念日(12/5)、年末年始(12/30～1/4)

ファクシミリ診療申込書は当院ホームページ「医療関係者の方へ」よりダウンロードできます。

FAX 受信後、当院からの電話にて予約日が決定となります。

※受付時間以降に受信したFAXへのご連絡は翌開院日となります。

※夜間の救急依頼のFAXには対応できませんのでご了承ください。

お電話でも承っておりますが、大変繋がりにくい状況となっております。特に、昼(12時～13時)・夕方(16時以降)は回線が混み合いますので、FAXをご活用ください。

このたび、呼吸器内科学講座教授に就任いたしました。呼吸器領域は、気管支喘息、COPD、肺癌、間質性肺炎、呼吸器感染症、呼吸不全など多岐にわたります。咳嗽や呼吸困難など QOL を著しく低下させるため、的確な診断や治療が望まれる領域でもあります。これまで、気管支喘息などのアレルギー疾患、間質性肺炎や肺線維症、気管支拡張症などの難治性気道疾患を専門としてきました。近年、気管支喘息や肺癌領域を中心に生物学的製剤や分子標的薬など新しい薬剤が次々に登場しております。こうした治療の進歩も積極的にとりいれ、周辺医師会との連携を深め、地域医療にも貢献してまいります。呼吸器内科とともに女性科も兼務しております。女性医師を希望する、呼吸器疾患の女性患者さんも拝見いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



呼吸器内科学
女性科（内科）
教授 近藤光子

消化器内科学
教授 清水京子

2018年4月に消化器内科学講座教授を拝命しました。私は消化器疾患全般のほか、胆道・膵臓疾患を専門としています。消化器内科胆・膵グループでは膵癌の早期発見・早期治療をめざして、膵癌の高リスク群である膵嚢胞、慢性膵炎、糖尿病などの患者様や、検診などで膵臓に異常を指摘された方に対して、速やかにかつ細やかに膵臓の精査を行っています。膵癌と診断された場合には、切除可能症例では当院消化器外科肝胆膵グループで外科治療を行い、治癒切除困難例には化学療法、化学放射線療法、内視鏡治療、疼痛緩和療法などの集学的治療を積極的に行っています。また、総胆管結石嵌頓、重症胆嚢炎・胆管炎、重症急性膵炎などの急性腹症に対しても、緊急内視鏡治療やICU管理を行っています。当院の消化器内科胆・膵グループではどのような場合にも最大限の対応ができるように高度な技能を有するチーム医療を行っています。ご紹介下さいました患者様には誠意を持って対応させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。



2018年4月に眼科学講座の教授を拝命致しました。眼科外来では、角膜ヘルペスなどの眼感染症、ドライアイ、花粉症や春季カタルなどのアレルギー性結膜疾患を中心に診療を行っております。日本には、諸外国に先駆け認可された免疫抑制点眼薬やドライアイ治療薬があり、これらを使いこなすことが大切です。難治な春季カタル、ドライアイをぜひご紹介下さい。引き続き、先生方のところでも継続できるお勧めの治療方針をお示しできるように致します。

「女性医師による女性特有の疾患や発症率の高い疾患の診療」をコンセプトに2018年5月に開設された「女性科」でも診療を行っております。ドライアイは女性に多く、指定難病であるシェーグレン症候群は圧倒的に女性に多い自己免疫疾患です。女性科（眼科）では、ゆっくりとお話を聴きながらドライアイを中心に満足度を向上させる診療をめざしております。ご紹介いただければ幸いです。

眼科学
女性科（眼科）
教授 高村悦子



このたび、呼吸器内科学講座の教授・講座主任を拝命いたしました。母校である本学において、教授に就任することは大変光栄なことであり、身の引き締まる思いであります。外来を受診する主訴の第1位は咳であり、肺癌、COPD、喘息、間質性肺炎、肺炎など呼吸器内科で診療する疾患は多岐にわたり、患者数は増加しております。また、全人口の2人に1人がアレルギー疾患に罹患していると言われており、難治性喘息に対する生物学製剤投与や気管支サーモプラスティなど最新の治療をアレルギー専門医、指導医が行っております。検査においては、最先端の機器を用いた超音波気管支鏡、そしてクライオ（凍結）生検を国内で初めに導入しました。肺癌治療においては、他科と連携し集学的治療を行っております。安全、安心の医療を心がけております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



呼吸器内科学
教授 多賀谷悦子

このたび、糖尿病・代謝内科学講座（糖尿病センター）ならびに女性科・内科の教授を拝命いたしました。糖尿病治療における当科の役割は、単に血糖値を管理することにとどまらず、合併症の発症予防や進展を抑制し、糖尿病患者さんが健康な人と変わらない生活を送れるようサポートすることです。血圧や脂質、体重管理などにとどまらず、その役割は多岐に渡るため、メディカルスタッフや、眼科をはじめとする他科との連携も欠かせません。皆さんと力を合わせ、一人でも多くの糖尿病患者さんの QOL 向上に尽力したいと思います。また、新たな使命となる“女性科”のプレゼンスの向上にも努めてまいります。女性は疾病に罹患しても、社会や家庭の中での役割分担において、自己の優先順位が低くなる傾向があります。女性が自然体で活躍できる社会の基礎造りとなる“女性の健康管理”を推進し、女性科の諸先生方と連携して“女性科”の認知を高めていきたいと思っております。ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



糖尿病・代謝内科学
女性科（内科）
教授 中神朋子

耳鼻咽喉科学の教授に、昨年9月27日に就任いたしました。耳鼻咽喉科では、めまい、難聴、中耳疾患や顔面神経麻痺を扱う耳科領域、副鼻腔炎、アレルギー、顔面外傷などを扱う鼻科領域、口腔・咽頭疾患や睡眠時無呼吸を扱う咽頭領域、音声や嚥下を扱う喉頭領域、頭頸部の良性・悪性腫瘍を扱う頭頸部領域など、広い領域の疾患に対応する診療科であります。外科系であります。大半の手術は2～3時間で、腕力を必要としないので、女性医師向けの科でもあります。しばらく行なっていなかった頭頸部悪性腫瘍の診療を近々開始いたします。現在、約7割が女性医師で、その大半が東京女子医科大学の卒業生であります。ライフイベント後復帰し、ロールモデルとなる女性医師も育てています。当教室ならびに本学のさらなる発展のために、スタッフ一同尽力いたしますので、今後とも耳鼻咽喉科学教室を宜しくお願いいたします。

耳鼻咽喉科学
教授 野中学

